令和５年度　流山小学校　学校評価について

１　学校評価の実施にあたって

　今年度の学校評価を実施するにあたって、昨年度に引き続き保護者、児童、および教職員に対して同じ項目で評価を行うことで、それぞれの立場から見た評価結果を比較分析できるようにしています。また、昨年度と質問項目を同じものにしており、昨年度からの経年変化を見て今後のより良い教育活動実現に向けて考察しました。

２　評価の方法

　実施時期・・・令和５年１２月５日（火）～１１日（月）

　実施方法・・・アンケート方式

　回答率　・・・教職員69/82 　84.1％　児童1030/1085 　94.9％　 保護者497/848 　58.6％

３　考察

　質問項目ごとの考察は以下のとおりです。

（１）児童は学校に楽しく通っている。

「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答の割合は教職員、児童、保護者共に例年とほぼ変わりませんでした。児童の「全くそう思わない」という回答が昨年より０．８％減少したものの、「あまりそう思わない」の回答と合わせると未だ１５％程の児童が何かしらの悩みや不安等を抱えて学校生活を送っていることが見受けられます。日々の授業や学校行事、友達や先生、地域の方々との交流などを通して、さらなる教育活動の充実を図り、子供たち一人一人に寄り添い、不安や悩みの把握と解消に努めていきます。

（２）児童は、自分から挨拶をして、友達や周りの人に優しい気持ちで接している。

昨年度と比較すると肯定的な回答は教職員－9.3％、保護者－3.0％と減少し、一方児童は＋4.4％増加し9割近くの児童が肯定的に捉えてることがわかりました。コロナ禍が終息し、マスクを外す機会も増え、相手の表情がわかりやすく挨拶のしやすい環境になりました。本校では「めえげこ（めをみて、えがおで、げんきに、こころをこめて）」を合い言葉にしているので、お互いが気持ち良くなれる挨拶ができるように引き続き指導していきたいと思います。また、地域の人と挨拶で繋がることで防犯上の観点からも抑止力になると言われています。まずは、教職員や大人が子供たちの手本となるような挨拶を心掛け、子供たちが自発的に気持ちの良い挨拶ができるように工夫して取り組んで参りたいと思います。

（３）学校は、きれいで整頓されている。

昨年度との比較から、肯定的な回答率は教職員－18.4％、保護者－6.8％、児童＋2.6％でした。教職員や保護者は昨年度よりもきれいに整頓されていない課題が顕著に表れました。一方で８割近くの児童が肯定的な回答をしています。

このことから、日々の清掃活動において児童は頑張って清掃している意識はあっても、教職員や保護者にとっては満足のいく結果となっていないということが見えてきます。

今後、子供たちがそうじの時間を主体的に取り組めるよう指導していくと共に、教師自身が手本となり具体的なそうじの仕方について手本を示していくことが大切だと考えています。

また、今後も保護者の皆様による草むしりや清掃ボランティア活動等で子供たちでは行き届かない場所等の環境美化にご協力いただけますと幸いです。

老朽化している箇所については、市とも連携を図り順次改修作業を行っています。今回のアンケートで保護者の皆様からいただきました貴重なご意見を参考にさせていただき、今後も環境整備に取り組んで参りたいと思います。

（４）学校は、災害や感染症などの安全対策を積極的に行っている。

昨年度との比較から、肯定的な回答率は今年度も全体的に９割前後と高い結果となりましたが、保護者が－6.5％と減少しました。

今年度は５月に新型コロナウイルスが５類になったことで、コロナ禍前の学校生活に少しずつ戻りつつあります。移行期でもあり不安に感じる保護者の方のお問い合わせやご意見もいただいておりますが、学校では今後も国や県、市の基準に則り、子供の学びを止めずに感染症対策を講じ、安心して学校生活を送れるようにして参りますのでご理解ご協力の程お願いいたします。

（５）学校はわかりやすくて学力を高めるような授業を行っている。

昨年度との比較から、肯定的な回答率は、教職員＋0.6％、児童＋1.7％、保護者－6.0％という結果となり、大きな差はありませんでした。

今年度も教職員は95％以上と高く、わかりやすく学力を高める授業を心掛けて指導にあたっている様子がうかがえます。また90％以上の児童も授業がわかりやすいと感じていることは我々教職員にとっても励みとなる結果となりました。しかし残り10％弱のわかりづらいと感じている児童への指導方法について、更なる研修に努め対策を講じていく必要があると考えています。

また、保護者の肯定的な回答が減少した結果を受け、授業参観や懇談会、個人面談等でわかりやすい授業の様子などをお伝えできるように努めて参ります。

（６）学校は、一人一人の特性を大切に指導・支援を行っている。

　昨年度との比較から、肯定的な回答率は教職員－8.8％、児童－0.4％、保護者－5.5％という結果になりました。

　教職員の肯定的な回答率が8.8%減少しているということは、昨年度よりも一人一人の特性を大切に指導・支援が十分にできていないということであり、それが児童、保護者の肯定的な回答率の減少結果にも表れていると予想できます。

　全体的に見れば80～90％の人達が肯定的に捉えているものの、10～20％の人達への指導・支援について教職員で共通理解を図り指導・支援にあたって参りたいと思います。また、細かな児童の様子も察知できるよう、子どもと向き合える時間を確保するとともに、昨年度より流山市が導入した「心の天気」は、どの子がどんな気持ちを表したか見ることができるので、保護者の皆様と連携しながら、子どもへの目配りや声掛けにいかしていきたいと考えています。

（７）学校は、子どもたちの読書環境を整えている。

昨年度との比較から、肯定的な回答率は教職員＋5.1％、児童－1.5％、保護者－5.1％という結果となり全体を通して大きさは見られませんでした。

一昨年度の図書室の移動に伴い図書室の読書環境は一新されました。流山市で配置されている学校図書館司書の先生を中心に図書ボランティアの皆様のご協力をいただきながら、明るく読みやすく、読みたい本がすぐに手に取りやすい環境改善に日々取り組んでいます。

図書室の貸出冊数は年々増えており、市の取り組みである「Ｒ１読書グランプリ」の本を紹介するポップ部門には、今年度も多くの児童が取り組み応募しました。図書ボランティアやおはなしの森の皆様のご協力も大きいと思われます。一方で高学年になるにつれて、読書率が低下している課題もあります。多くの児童が本に興味をもってもらえるような環境づくりや取り組みをさらに考えていきたいと思います。

（８）学校の教職員は、子どもや保護者の話をよく聞いてくれ、相談しやすい。

昨年度との比較から、肯定的な回答率は教職員－3.0％、児童＋0.8％、保護者－6.8％という結果となりました。ここ数年、全体的に９割以上の肯定的な回答を得られていましたが、今回保護者の回答が９割を下回ってしまったことや自由意見で頂いたご意見などを真摯に受け止め、保護者の皆様が学校や教職員に気兼ねなく相談しやすい環境作りに励んで参りたいと思います。

子どもたちには、悩みや困りごとをいつでも相談できるよう、悩みごと相談員がいることや悩みごと相談ポストがあることを繰り返し周知し、子どもへの指導支援にあたっていきたいと思います。

（９）学校の教職員は、見出しなみや言葉遣いが適切である。

昨年度と比較しても大きな差は見られず、今年度も肯定的な回答は保護者、児童、教職員共に90％以上の回答を得ました。その一方で自由意見では「言葉遣いの悪い先生がいる」「授業や公の場で使う言葉は正しい言葉を遣って欲しい」「丁寧な言葉で話して欲しい」などの声が寄せられました。学校では適切な言葉遣いで指導に当たることを全職員共通理解しておりますが、徹底されていない現状を真摯に受け止め、改善に努めて参ります。時には厳しく指導しなくてはならない場面もありますが、そこには愛情を持って子どもの心に寄り添った言葉で指導していくことを再度全職員と共通理解して参ります。

（10）学校は、授業や行事など学校生活の中で、保護者や地域との関わりを大切にしている。

昨年度との比較では、全体的に大きな差は見られませんでした。

150年以上の歴史ある本校の教育活動は、これまでたくさんの地域の皆様のご支援ご協力に支えられながら共に築き上げて参りました。コロナ禍が終息し、これまで制限されていた地域の方々との交流行事も制限なく再開できるようになりました。引き続き、保護者と地域の皆様に支えられていることを、子どもと共に感謝しながら進めて参ります。